

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 吉見 泰治

学科における私の授業担当は、有機化学 I（1年生）と有機化学 III（2年生）、3年生での学生実験の2回分になっています。昨年度に退職された先生の代わりに有機化学 I を担当しましたが、今年の学科の3年生の皆さんとは、2年生後期での有機化学 III の授業および3年生前期の学生実験2回分だけでしか接する機会がなかったのですが、少ない関わりの中で選んでいただき感謝いたします。このように学科における有機化学分野に対する教育に大きな責任を持つことになりましたので、有機化学の魅力が学生達に伝えていきたいと考えています。講義における技術的な工夫は特にやっていません。パワーポイントを一切使用せず、板書を見やすく書き、わかりやすく学生に説明します。また、後で、ノートを読み直しても理解できるように、重要なことは日本語で、しつこいぐらい板書することぐらいです。昭和的な考え方で申し訳ありませんが、やはりノートに自分で書いて覚えるということが、理解への1番の近道ではないでしょうか。当然、ノートに書くだけでは深い理解は得られませんので、その後に演習問題を自分たちで考えてレポートとして提出させ、授業で答え合わせをしています。

大した授業の工夫はしていませんが、学科の学生達が有機化学関連の授業が面白かった・役に立ったと感じられるように取り組んでいきたいと考えています。